

令和7年度いしかわ森林環境基金事業 評価報告書

令和7年12月26日

いしかわ森林環境基金評価委員会

いしかわ森林環境基金評価委員会意見

1 意見

- (1) 令和 6 年度の「いしかわ森林環境基金事業」の主な取組と実績については適切であり、引き続き、放置竹林の除去や緩衝帯の整備、県産材の利用促進による森林の公益的機能の確保、及び県民の理解と参加による森づくりの推進に努められたい。
- (2) 今後の「いしかわ森林環境基金事業」に関しては、昨今の獣害問題を踏まえ緩衝帯整備を継続するとともに、引き続き、放置竹林の除去や県産材の利用促進、森林整備後のモニタリング等を継続することが望ましい。また子ども達や県民が森林・林業を学ぶ機会の提供も重要である。加えて、防災・減災や生物多様性保全のため、能登の森林の復旧・復興や森林整備の促進も重要な課題である。

令和6年度取組実績

I 森林整備

491,328 千円

- (i) 放置竹林の除去等 83ha
- (ii) 緩衝帯整備 12 地区
- モニタリング調査等 1式

(国庫 R6 当初・補正 + 税)

II 県産材利用促進

- (i) いしかわの森で作る住宅推進事業 29,205千円
 - ・県産材を使った住宅等の新築・増改築・購入への助成

- (ii) いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業 26,870 千円
 - ・県産材を使った民間非住宅施設への助成

- (iii) いしかわの木づかい運動推進事業 5,666 千円
 - ・県産材の利用促進に向けた機運醸成
- (税)

III 普及啓発

- (i) 森林や木材利用に対する理解の増進 21,129千円
 - ・普及啓発や情報提供の実施 等

- (ii) 県民参加の森づくりの推進 13,430 千円
 - ・県民森づくり大会等の開催や子ども達が参加する森林体験活動への支援 等
- (税)

合計

587,629 千円

(税 367,629 千円)
(国庫 220,000 千円)

I 森林整備

県民共有の財産である森林を健全な姿で次の世代に引き継いでいくため、森林の公益的機能の維持・増進を図る整備を実施しました。

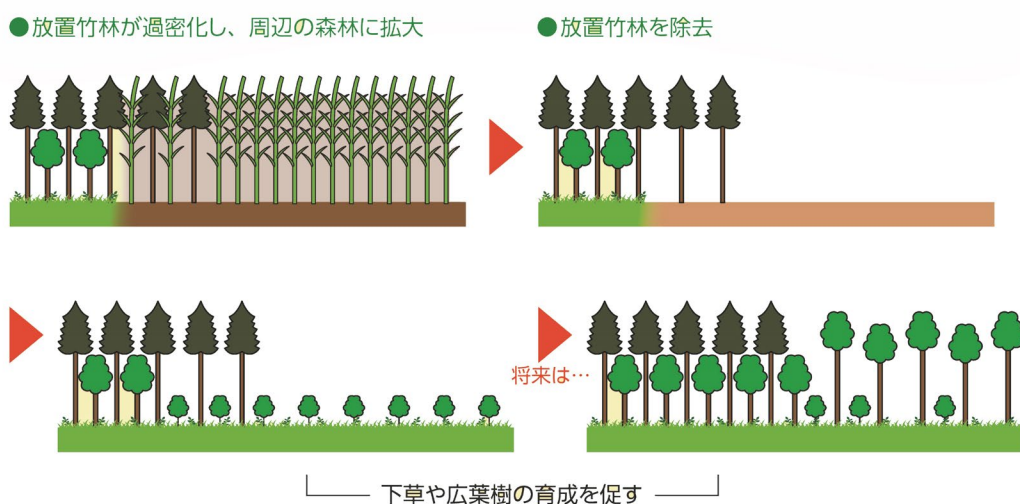
令和6年度は、(i)放置竹林の除去と(ii)里山における緩衝帯整備の他、これらの事業の効果を検証するため、モニタリング調査を引き続き実施しました。

(i) 放置竹林の除去

(R6 事業費実績:444,933 千円(基金 224,933 千円+国庫 220,000))

近年の豪雨の増加を踏まえて、放置竹林に起因する山腹崩壊などを防ぐため、集落周辺の放置竹林を重点的に除去しました。(事業主体:県)

令和6年度は、放置竹林の除去 83ha、広葉樹の植栽 83ha、除去後2年間の再生竹の刈払い230haについて実施しました。



放置竹林の除去のイメージ図

■整備計画

- 第4期(R4~R8)の計画: 550ha
(集落周辺において、地区の同意が得られた箇所から順次実施)
- 併せて、広葉樹の植栽と、除去後2年間の再生竹の刈払いを計画

■第4期の実績

(単位:ha)

項目	第4期(R4~R8)				
	R4	R5	R6	R7 見込み	計
放置竹林の除去	100	70	83	95	348(R4-R7) (5年間計画 550)
植栽	100	105	83	未定	
再生竹の刈払	251	283	230		

■放置竹林の除去の実施状況

<七尾市三引町 地内>



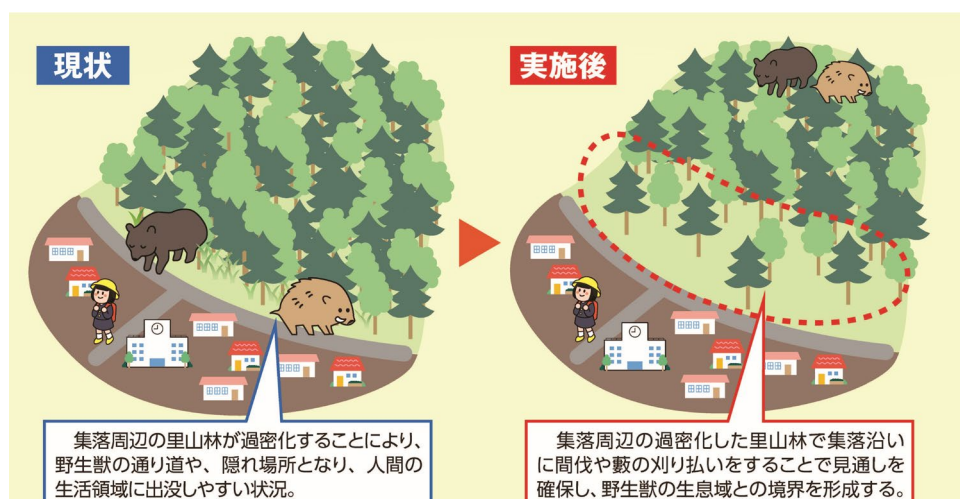
再生竹刈払完了後 1 年経過



(ii) 里山における緩衝帯整備(R6 事業費実績:24,221 千円)

野生獣の出没に対して、野生獣と人里との距離を保つ(バッファゾーンを設ける)ことを目的に、過密化した里山林において森林の見通しを良くするための立木竹の伐採や刈払い等の整備を実施しました。(事業主体:市町)

令和6年度は過去3年間に野生獣の出没回数が多く、地区から要望があった12地区について実施しました。



緩衝帯整備のイメージ図

■整備計画

- 第4期(R4～R8)の計画： 80 地区
(過去3年間に野生獣の出没回数が多かった地区の中から、各地区の要望等を踏まえて選定)

■第4期の実績

項目	第 4 期(R4～R8)				
	R4	R5	R6	R7 見込み	計
緩衝帯の整備	22 地区	14 地区	12 地区	13 地区	61 地区(R4-R7) (5 年間計画 80 地区)

■緩衝帯整備の実施状況

<白山市吉野地内>



II 県産材利用促進事業

木材の最大の用途である建築分野での更なる県産材利用促進対策として、県産材を使用した住宅や民間施設への助成や、県産材利用の機運醸成に向けたPRなどを実施しました。

(i) いしかわの森で作る住宅推進事業(R6 事業費実績:29,205 千円)

県産材の利用を促進するために、県産材を使用した住宅を建てた施主に対し助成を行いました。

令和6年度は、助成件数250件、県産材使用量2,698 m³となりました。



さらに令和7年度には、令和6年能登半島地震、令和6年奥能登豪雨で被災した方の再建を対象に、助成額を2倍とする特例措置を実施しています。

助成内容

通常 枠	県産材 使用量	-	5~7m ³ 未満	7~15m ³ 未満	15~20m ³ 未満	20m ³ 以上	25m ³ 以上かつ 県産材使用率90%以上	木塀・ ウッドデッキ
	助成額	-	7万円	10万円	15万円	30万円	50万円	5万~15万円
特例 措置	県産材 使用量	3~5m ³ 未満	5~7m ³ 未満	7~15m ³ 未満	15~20m ³ 未満	20m ³ 以上	25m ³ 以上かつ 県産材使用率90%以上	木塀・ ウッドデッキ
	助成額	10万円	15万円	20万円	30万円	60万円	100万円	-

助成実績(第4期)

年度		3~5m ³ 未満	5~7m ³ 未満	7~15m ³ 未満	15~20m ³ 未満	20m ³ 以上	25m ³ 以上かつ 県産材使用率 90%以上	木塀・ ウッドデッキ	合計	県産材 使用量
R4		-	22件	133件	30件	34件	21件	24件	264件	3,525m ³
R5		-	46件	130件	34件	25件	9件	19件	263件	2,976m ³
R6		-	51件	141件	29件	9件	7件	13件	250件	2,698m ³
R7※	通常 枠	-	32件	75件	15件	7件	0件	1件	130件	
	特例 措置	1件	6件	12件	4件	0件	2件	-	25件	

※R7年度は12月現在の件数(申請は年度末に多い)。通常枠と特例措置で計155件で、R6同期(107件)と比較すると1.4倍の伸び

(ii)いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業

(R6 事業費実績: 26,870 千円)

民間非住宅施設における県産材利用について、より一層の普及・拡大を図るため、県産材使用率などの一定の要件を満たす民間施設に対し、助成を行いました。

令和 6 年度は、助成件数 11 件、県産材使用量 321 ㎡となりました。

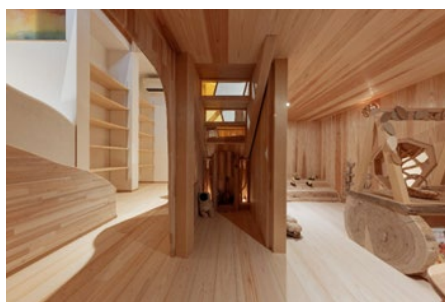
第4期におけるこれまでの主な助成施設



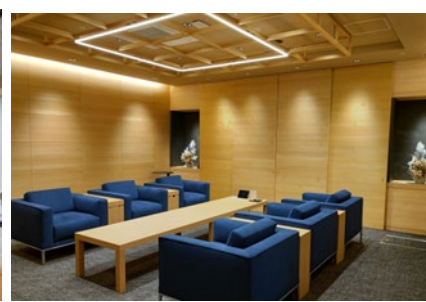
宿泊・交流施設



カフェ



子どもの遊び場兼カフェ



コワーキングスペース



クリニック



社宅・寮

助成実績(第4期)

区分	第4期		
	R4	R5	R6
件数	14 件	10 件	11 件
県産材使用量	425 ㎡	522 ㎡	321 ㎡

(iii)いしかわの木づくり運動推進事業

(R6 事業費実績:5,666 千円)

県産材利用の機運醸成に向けて、県産材の認知度向上に向けた取組や、各種情報提供のほか、県産材の利用拡大における功績のあった者を表彰する取組を実施しました。

【令和6年度いしかわの木づくり表彰受賞者】

(1)県産材利用住宅部門

①前年度(令和5年度)の県産材の需要拡大に貢献した者(3者)

(株)玉家建設(県産材使用量:720 m³)

(株)イング(県産材使用量:264 m³)

(株)シモアラ(県産材使用量:249 m³)

②他の模範となる住宅(1者)

森の香りで和らぐ美容室(nicott)【かほく市】県産材使用量:10.22 m³

(設計・施工:(株)沢野建設工房)

外壁にスギ、床下等に能登ヒバ、柱や内装にヒノキなど県産材をふんだんに使うことで、自然を感じられるとともに、調湿・防虫効果が高く、木の香りを通じてリラックスできる空間を作っている。



(2)県産材利用施設部門 (2者)

①TADAIMA【七尾市】県産材使用量:32.45 m³

(施主:(有)七尾自動車教習所 設計:(株)継手意匠店／総建建築事務所

施工:(株)建匠)

柱に県産スギ、食堂の内外装に能登ヒバを使うことで、木のぬくもりが感じられるスペースとなっている。能登半島地震の際には自主避難所として活用された。



②緑化木センター事務所棟【金沢市】県産材使用量：21.67 m³

(施主：金沢森林組合 設計：谷重義行建築像景 施工：(有)けやき住建)

オール県産材で木の良さを伝える内外観となっており、自然と共生する空間がデザインされている。



(3)県産材利用製品部門 (1者)

能登ヒバゲート・能登ヒバストッパー(製造者：(株)奥能登元気プロジェクト)

輪島市の福祉施設と連携した取組であり、地域資源の能登ヒバを使うとともに、メッセージを入れて工事現場等で使われることで、能登の復興のシンボルとして発信できる。



Ⅲ 普及啓発事業

森林は、様々な公益的機能を有しており、県民共有の財産として社会全体で支えていくことが重要です。このため、森林の重要性を県民の方々に十分に理解していただくとともに、森づくり活動に参加していただくことを目的として、(i)森林や木材利用に対する理解の増進と(ii)県民参加の森づくりの推進の2本柱として施策を展開しています。

令和6年度は、他部局とも連携しつつ、下記の事業を実施しました。

■令和6年度 普及啓発事業一覧

(単位:千円)

区分	事業名	事業費
(i) 森林や木材利用に対する理解の増進	(1) いしかわ森林環境基金評価委員会	21,129
	(2) いしかわの森づくり普及広報推進事業	
	(3) いしかわ森林環境功労者表彰	
	(4) 森林への理解を育む木育推進事業	
	(5) 里山子ども園推進事業	
	(6) いしかわ森林環境実感ツアー	
	(7) いしかわ景観キッズプログラム	
	(8) 木に親しむまちづくり推進事業	
(ii) 県民参加の森づくりの推進	(1) いしかわの森づくり推進月間事業	13,430
	(2) こども森の恵み推進事業	
	(3) 森づくりボランティア推進事業	
	(4) いしかわ身近な森保全事業	
	(5) フォレストサポーターによる森づくり推進事業	
	(6) 企業の森づくり推進事業	
	(7) 石川の森整備活動 C02 吸収量認証事業	
計		34,559

それぞれの事業の概要は以下の通りです。

(i) 森林や木材利用に対する理解の増進

(1) いしかわ森林環境基金評価委員会

事業の成果を検証・評価するとともに、事業の見直しの必要性について検討するため、1回開催しました。放置竹林や緩衝帯の整備の現場も視察しました。



いしかわ森林環境基金評価委員会

(2) いしかわの森づくり普及広報推進事業

新聞広告やパンフレットの作成により、県民に対し森林の役割や森林環境税の意義を周知するとともに、各種イベントにおいて森林や木材利用に対する理解を深めるための取組を実施しました。

平成19年の税導入当初から18年間で延べ21万人が取組に参加しており、県民の森林・木材利用に対する理解の増進や県民参加の森づくりの推進につながっています。

新聞広告(7月、9月、3月 北國新聞及び北陸中日新聞掲載)



いしかわ環境フェア(8月)



農林漁業まつり(10月)



子ども向け普及チラシ(表)



子ども向け普及チラシ(裏)

(3)いしかわ森林環境功労者表彰

森林環境の保全に対する貢献が顕著であり、他の模範となる者を表彰しました。

令和6年度は、4 団体を功労者として選定し、知事から表彰状を授与しました。



県民みどりの祭典にて表彰(津幡町)

【主な功績】

区分	受賞者名	主な功績
団体	奥能登原木しいたけ活性化協議会 (穴水町)	奥能登地域で、地域住民と協働した森づくり活動や、地元の中高生を対象とした森林環境教育に取り組んでいる。 特に、平成24年からは地元の中高生を対象に、植樹の指導や原木しいたけの植菌などの体験活動を継続するなど、森林資源の有効活用と次世代への森林環境教育に積極的に取り組んでいる。
学校	石川県立津幡高等学校 PTA (津幡町)	教員や保護者、地域住民と協働して、在校生を対象に森林体験活動を通じた森林環境教育に取り組んでいる。 近年は、生徒会を主体に地域の竹林整備ボランティア活動を行い地域貢献するほか、3年生を対象に楮(こうぞ)を利用した手すきの和紙で卒業証書を作成するなど、地元の産業や自然環境に焦点を当てた環境教育に積極的に取り組んでいる。
学校	学校法人馬場幼稚園 (金沢市)	「森の幼稚園」と題し、園児たちが自然と触れ合う園外活動を年間通じて実施するなど、幼少期からの森林環境教育に力を注いでいる。 保護者も一緒に参加できるイベントを開催するなど、幅広い世代を対象に森林や木材利用に対する理解の増進に尽力している。
企業	コマニー株式会社 (小松市)	平成25年度に県及び小松市と森づくり活動の協定を締結して以来、小松市日末町の海岸林で森づくり活動を行っている。 これまでに、抵抗性クロマツの造成を目指し、社員のみならず、家族も参加して約850本の植栽を行い、年2回の下刈、つるきりなどの保育作業を継続的に行っている。

(4)森林への理解を育む木育推進事業

幼児から大人までが木に親しみ、木の良さを学ぶとともに、森林への理解を育むことを目的として「木育」出前講座を7回実施しました。

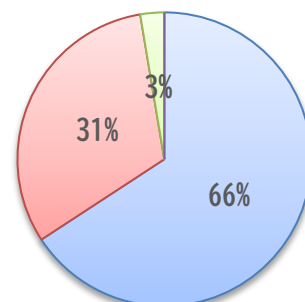
保護者、先生へのアンケートの結果、9割以上が「子ども達が木や自然への親しみが持てた」と回答しており、子ども、保護者、先生の木材利用への理解が増進したと考えています。

【保護者、先生へのアンケート】

Q:子ども達が木や自然への親しみを持てたか？

(n=76)

実施回数	参加人数(人)	
	おとな	こども
7	223	
	81	142



■そう思う ■少しそう思う ■あまりそう思わない

○木育出前講座の様子



木場こども園



メロン幼稚園

【参加した先生（保育士）の声】

- ・珍しい木でできたおもちゃばかりで、子ども達がとても楽しそうだったので、また機会があれば実施したい。
- ・実際にスギの木に触れたり、木材の香りをかいだりすることで木への興味・関心がより深まったように感じる。
- ・自然に触れる経験が少なくなっている今、とても良い機会だと感じた。
- ・木のおい、感触を楽しみ、実際に五感を使って味わえる体験ができて貴重な時間だった。

(5) 里山子ども園推進事業

県内の保育園・幼稚園を対象に、自然体験プログラムを 58 回実施しました。

園の先生方の声では、環境教育に興味を持ったという方がほとんどで、園独自で自然体験活動を実施していくきっかけづくりになったと考えています。

区分	R6
実施回数	58
参加人数	1,289

○里山子ども園の様子



夕日寺健民自然園(金沢市)

(6)いしかわ森林環境実感ツアー

小学生を対象に、森林整備や木材加工の現場を見学するバスツアーを開催しました。

子どもたちへのアンケートの結果、実感ツアーを通して、9割以上が森林や林業について興味がわいたと回答しており、次代を担うこどもたちの森林・林業への理解が増進したと考えています。

また、先生へのアンケートの結果、全員が今後も森林環境教育や体験学習に取り組みたいと回答しており、森林や林業への理解増進につながったと考えています。

○森林環境実感ツアー(こども向け)

開催日	R6 参加校	参加人数
10/ 1(火)	金沢市立伏見台小学校	118
10/22(火)	白山市立東明小学校	101
10/31(木)	加賀市立東谷口小学校	16
11/ 6(水)	小松市立稚松小学校	70
計	4校	305



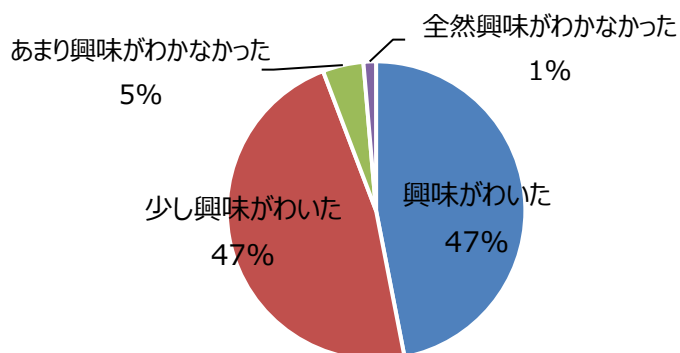
伐採現場の見学



製材工場の見学

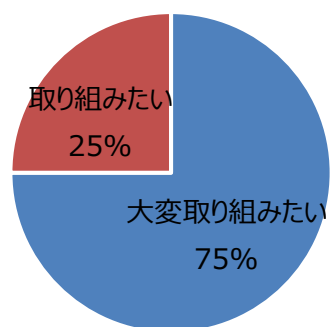
【子どもたちへのアンケート】

Q:森林・林業について興味がわきましたか？ (n=294)



【先生へのアンケート】

Q:今後もこのような森林環境教育や体験学習に取り組んでいきたいですか？ (n=8)



【実感ツアーに参加した児童の声】

- ・ツアーを通して、人間は森や木に助けられているんだということが分かりました。
- ・森は環境にとってもいいことを知ったので、森をしっかり守って森のよさを後世にも伝えていきたいです。
- ・一番印象に残ったのは実際に木を切るところの見学です。倒れ方もゆっくりでもう一人は縄をもって安定していてすごい技術だと思いました。
- ・最初は木を間伐するとき、どうして木をわざわざ切るのかなと思いました。でも話を聞いていると、間伐は他の木のためにもなっていることが分かりました。

【実感ツアーに参加した先生の声】

- ・学校の中では学べないこと、なかなか普段の生活の中では体験できないことを学べて、本当に児童にとって良い1日となりました。
- ・実際に林業のお仕事を拝見して、どんな苦労や工夫をして木を伐っているか実感できました。またそこから木材にしていく流れも、所々触れたり、体を動かしたりしながら体験的に学習できてとても楽しかったです。

(7)いしかわ景観キッズプログラム

小学生を対象に、里山の景観保全と森づくりの大切さを理解する体験学習を1回実施しました。

授業と地元の方のお話を聞いて、風景や景観に対する興味が湧いたとの声があり、里山の景観保全と森づくりの大切さについての理解を推進することができたと考えています。

区分	R6
学校数	1
参加人数	17

○いしかわ景観キッズプログラムの様子



小松市立犬丸小学校

(8)木に親しむまちづくり推進事業

県民共有の財産である森林の適切な整備・保全を進めるために、木材利用に対する理解を深めることを目的として、建築士等を対象に、木造建築の最新事例や設計のノウハウに関する講習会を開催しました。

参加者からは「木造建築への理解が深まり、良い機会となった」など好評であり、木造建築を行う建築士等に対する効果的な取組として評価が得られました。

R6 開催日	講習会題目	講習会内容	参加人数
9/14(土)	能登半島地震の現状と復興	能登半島地震の被害状況のレポート、県の取組、県内建築関係者の活動を知り、復興について考える。	25
10/19(土)	木加工の現場-加工技術を知る-	木材加工の現場を見学し、プレカット、製材の木材加工技術について学ぶ。	17
12/6(金)	岐阜県立森林文化アカデミー見学	中大規模木造の先駆的事例である森林文化アカデミーを見学する。	28
12/14(土)	県産材の性能試験と実習	スギの横架材としての性能や耐力面格子について学ぶ。	27
3/8(土)	木造建築の可能性	3名の建築家を招き、木組の住宅から中大規模木造まで幅広く木造建築を学ぶ。	22
合計			119

○講習会の様子



講習会



スギ横架材の加力試験

(ii) 県民参加の森づくりの推進

(1) いしかわの森づくり推進月間事業

毎年10月を「いしかわ森づくり推進月間」、「県産材利用推進月間」と定め、県下5地区で県民木づかい推進・森づくり大会を実施しました。

R6 開催日	開催テーマ	大会内容	参加数
10/5(土)	火打谷 苗木の里の森づくり(志賀町)	アテ林の整備	15
10/12(土)	小舞子海岸の森づくり(白山市)	海岸林の下刈り	94
10/25(金)	木を使い森を育てて郷土の森を守ろう(小松市)	ベンチ作製、下刈り	29
10/26(土)	まなびの森の整備活動(津幡町)	下刈り、歩道整備	14
11/ 6(水)	能登を応援！林業遺産の森づくり(輪島市)	アテの植樹	31
計	5地区		183

○県民木づかい推進・森づくり大会の様子



アテの植樹(輪島市)



海岸林の下刈り(白山市)

(2) こども森の恵み推進事業

こどもたちを対象に森林環境教育や森林体験活動を行うNPO等を支援しています。

令和6年度は17団体に支援しており、3,287人のこどもたちが森林体験活動等を経験し、次代を担うこどもたちの森林・林業への理解が増進したと考えています。

区分	R6
団体数	17
参加人数	3,287



植樹体験活動



菌床づくり体験活動

(3) 森づくりボランティア推進事業

里山林の保全や利活用等の森づくり活動を自主的に実施するNPO等を支援しています。

令和 6 年度は14 団体に支援しており、延べ 2,456 人が森づくり活動に参加し、13.5ha の森林整備が行われており、県民参加による森林整備が進んでいます。

区分	R6
団体数	14
参加人数	2,456
森林整備等 面積(ha)	13.5



森林整備ボランティア活動

(4) いしかわ身近な森保全事業

地域住民と協働で集落周辺の放置された里山林等の整備・保全・活用を図る団体を支援しています。

令和 6 年度は 2 団体の取組を支援しており、延べ 50 人の地域住民が参加し、3.7ha の森林整備が行われるなど、県民参加による森づくりが進んだと考えています。

事業主体	事業内容	整備 面積 (ha)	参加 人数 (人)
火打の里森の会	桜苗木の植樹、のとキリシマツツジの普及活動等	2.2	30
輪島林業研究グループ	アテの植林や林業遺産「能登のアテ林業」に係るワークショップ等	1.5	20
		3.7	50



アテ林の整備

(5) フォレストサポーターによる森づくり推進事業

森林ボランティア活動を主体的に推進できる、一定の知識と技術を持った人材(フォレストサポーター)を育成するため、養成セミナーを行いました(講義6回・実技7回)。

令和 6 年度は新たに 21 名をフォレストサポーターとして認定しました。



講義の様子

(6) 企業の森づくり推進事業

企業による森づくり活動を推進するため、企業に対する説明会や現地見学会の開催、活動フィールドの仲介、技術指導等を行いました。

令和 6 年度は 66 企業が 70 か所で活動を実施し、全体では延べ1,734 人が森づくり活動に参加しました。森林と木材利用に対する理解の増進と、県民参加の森づくりの主体の育成が進んでいます。

区分	R6
締結企業数	66
活動フィールド数(地区)	70
協定面積(ha)	132
森づくり活動参加人数	1,734



下草刈りの様子

(7) 石川の森整備活動 CO₂ 吸収量認証事業

社会貢献活動として森林整備活動を実施した企業に対して、社会に対する貢献度を二酸化炭素吸収量として認証しています。

令和 6 年度は16 団体を認証し、企業等が行う森づくり活動を推進しました。

区分	R6
認証数	16
認定吸収量 (t- CO ₂)	52.7